

APO Letter

2023
Vol. **85**
September

〈巻頭インタビュー〉

■ 外来がん治療における薬局薬剤師の役割

独立行政法人国立病院機構東京病院 薬剤部長
一般社団法人日本臨床腫瘍薬学会 理事長

近藤直樹 先生



CONTENTS

● Expert Interview 1

外来がん治療における
薬局薬剤師の役割

そうごう薬局の取り組み

天神中央店 リニューアル 7

塩原店 専門医療機関連携薬局認定 9

ドコモショップで健康測定会開催 10

2023年 学会発表演題紹介 11

総合メディカルの教育プログラム 13

外来がん治療における薬局薬剤師の役割

抗がん薬や分子標的薬の進歩により、外来で治療を受けるがん患者さんが増加しています。薬局とそこで勤務する薬剤師においても、がん治療を安全に実施するための知識・技能の習得のみならず、病院、地域との連携を強化し、がん患者さんとそのご家族をトータルにサポートすることが求められます。日本臨床腫瘍薬学会においては、APACC（外来がん治療認定薬剤師）、BPACC（外来がん治療専門薬剤師）の認定を始め、がん治療に関わる薬剤師の育成に注力しています。外来がん治療に関わる薬剤師に求められることはどのようなことなのか、臨床腫瘍薬学会理事長と国立病院機構東京病院薬剤部長を務められる近藤直樹先生にお話をお伺いしました。

Expert
Interview

近藤直樹
先生

独立行政法人国立病院機構 東京病院 薬剤部長
一般社団法人日本臨床腫瘍薬学会 理事長

プロフィール

1990年昭和大学薬学部生物薬学科卒業。
1995年より厚生省薬務局審査課、国立医薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センター、医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構治験指導部において新薬審査、治験相談を担当。その後、2000年国立国際医療センター、2007年国立がんセンター東病院治験主任、2010年国立病院機構東京医療センター治験主任、2016年国立国際医療研究センター副薬剤部長、2021年国立病院機構本部治験推進室長を務め、2022年3月より日本臨床腫瘍薬学会理事長、2023年4月より国立病院機構東京病院薬剤部長。



[インタビュー]

下川 友香理
Yukari Shimokawa

総合メディカル株式会社
上席執行役員
薬局事業本部 本部長
兼 学術情報部 部長



東京病院の特徴と連携の現状

下川 近藤先生は国立病院機構 東京病院（以下、東京病院）の薬剤部長と日本臨床腫瘍薬学会（JASPO）の理事長というお立場でご活躍です。まず、がん治療における連携について、東京病院で特に力を入れていることなど、お聞かせください。

近藤 私は4月に着任したばかりです。当院は療養所時代から肺がんの診療を行っており件数も非常に多いことから、肺領域において、東京都がん診療連携協力病院に指定されています。肺以外にも、消化器がん、泌尿器がんについて、専門的な治療を実施しています。連携先としては東京の西部地区とよばれる清瀬市、小平市、東村山市、東久留米市の医療機関、薬局が主になります。2020年度の診療報酬改定で連携充実加算^{*1}が新設されました。東京病院では算定ができるようになってからすぐに開始しており、基本的にすべての患者さんについて情報提供書をお渡ししています。ただコロナ禍で、近隣の薬剤師会とは3年ほど顔の見える関係ではなくなっています。薬局から発信される情報を得る機会が少なく、病院から一方的に情報発信をしているだけではないかという印象を着任当初から持っていました。そこで近隣薬局に連絡をしてウェブ会議を行なうとともに、清瀬市薬剤師会の会長とも電話やメールで連絡を頻繁に取り合っ連携を強化しているところです。連携充実

加算の要件として、薬局薬剤師を対象とした研修会の開催もありますので、当院のがん専門薬剤師と近隣市の病院のがん専門薬剤師でチームを組み、定期的に西部地区の勉強会・研修会を開催しています。

下川 がん治療においては緩和医療も重要となってきますが、東京病院では緩和医療にも力を入れていらっしゃいますね。

近藤 2022年12月に緩和病棟をリニューアルして20床から30床に増設し、クラウドで資金を募っての新棟立ち上げに伴い庭園も作りました。国立病院機構の関東甲信越グループの中で緩和病棟を持っているのは東京病院だけだと思います。当院には緩和医療の認定を持つ薬剤師はまだいませんが、担当薬剤師は回診やカンファレンスには必ず参加し、病棟に常に医師と薬剤師がいる環境を作るようにしています。一方、緩和医療薬学会とJASPOの情報交換も推進しているところです。化学療法だけではがん患者さんを支えることはできません。当院ではがん治療の初期段階から緩和チームが介入しており、治療と緩和の両方に力を入れていきたいと思っています。

*1 連携充実加算: 外来がん患者を対象に医師または薬剤師が、副作用の発現状況、治療計画等を文書により提供した上で、当該患者の状態を踏まえて必要な指導を行った場合に算定可能。また、地域の薬局に勤務する薬剤師等を対象とした研修会等を年1回以上実施することなどが施設基準として定められている。

専門薬剤師認定制度について

下川 JASPOでは外来がん治療認定薬剤師（APACC）と、外来がん治療専門薬剤師（BPACC）の認定も行なっています。この制度を始めた経緯を教えてください。

近藤 APACCの認定は2014年から始めました。学会の設立が2010年ですが、学会発足時から既に認定制度は議論にあがっていました。BPACCについては、2019年の改正薬機法で専門医療機関連携薬局の認定要件が示されたことから、JASPOにおいてもより専門性の高い薬剤師の認定制度を新設することとなり、私が作業班の責任者となって、2021年8月にBPACCの認定制度が始まりました。

下川 私は2012年に学会会員になり2015年にAPACCの認定を受けました。APACCは病院薬剤師だけではなく、薬局の薬剤師も受験することができます。薬局薬剤師も対象とされた理由をお聞かせください。

近藤 JASPOでは「がん薬物療法に関する病院と薬局との連携の強化・推進」が定款の中で事業内容として明記されており、学会立ち上げ時から連携が主要な柱の一つになっています。APACCの日本語名称は「外来がん治療認定薬剤師」です。外来がん治療においては病院薬剤師と薬局薬剤師の連携が必要不可欠ですので、もともと薬局の薬剤師にもこの資格を取っていただきたいと考えていました。認定要件として10事例を出していただくこととしており入院患者さんの事例は対象外で、外来患者さんの事例を対象としています。

もちろん病院薬剤師も認定の対象となります。他の学会でもがん専門薬剤師の認定資格制度がありますが、要件として長期の研修が求められており、大学病院やがん診療連携拠点病院のようなバックアップ体制ができている施設以外は申請が難しいという状況でした。がんの治療は大きな病院だけが行なっているわけではないので、多くの薬剤師にチャンスを与えたいという思いから、事例審査、筆記試験合格者を対象に面接試験を実施して認定を与えることにしました。面接では、きちんと介入して治療にあたったか、病院研修で行なっているのと同程度のスキルが十分あるかを確認しています。APACCについては病院薬剤師の方が圧倒的に多いです。当初は薬局の方への認定の受け皿として想定していましたが、実際には薬局薬剤師の認定者は1割程度に留まりました。一方でBPACCについては、薬局薬剤師の申請が増えており、200人近くの方が取得されています。APACCでは研修に行く必要がなかったのに、研修が必要なBPACCになってから薬局からの申請者が増えています。下川さんに増加の理由をお尋ねしたいと考えていたところでした。

下川 私はBPACC認定制度が始まってすぐに30日の研修に行き、申請して初年度のBPACC認定を受けました。やはりBPACCの取得が、同年度から始まった専門医療機関連携薬局認定の要件となったことが大きいと思います。どちらも個人の資格には変わりないのですが、専門医療機関連携薬局という制度ができたことで、認定取得を目指す経営層がBPACCの取得を後押しするという風土になってきたのではないのでしょうか。

近藤 会社としてのバックアップも必要ということで

すね。

下川 総合メディカルグループは現在全国で738薬局があります（2023年9月現在）。多くは地域のクリニックから処方箋を応需しており、がん診療連携拠点病院などと連携しているところは10薬局程度です。せめてその10薬局だけでもBPACCを育成し、専門医療機関連携薬局とすることが私の目標です。ただ全国でのBPACC数は地域差がかなりあり、「県に一人しかいないので相談できる相手がいない」といった声も聞きます。BPACC同士の連絡、連携を強化するために、今年のJASPO学術大会では、「専門医療機関連携薬局の推進に向けた薬局BPACC会議」をプログラムとして立ち上げていただきました。今の時点で私ができることは、社内のBPACCを繋げることです。

またJASPOは横のつながりが強い学会ですので、学会で知り合った薬局の先生と病院の先生とが一緒に連携したりセミナーを実施したりと、全国でさまざまな連携が進んでいます。

近藤 JASPOを立ち上げたのは2代前の理事長の遠藤一司先生です。抗がん薬は病院でも薬局でも多く処方されるのに、当時は薬剤師の教育体制も整っておらず、抗がん薬治療に向き合う薬剤師も決して多くはありませんでした。さらに抗がん薬の勉強をし、副作用で苦しむ患者さんを守るための団体が必要だという思いがあり、この学会を立ち上げています。私は当時、国立がんセンター東病院におりました。東病院では2006年頃から地域の薬局と勉強会を開催していました。JASPOでは、そのような活動を全国に広げていくための仕組みづくりをしています。





薬剤師の教育について

下川 薬剤師の教育に関して、JASPOでは、「かかりつけ薬剤師・薬局のがん薬物療法に関する業務ガイドンス^{※2}」を発行されています。これも近藤先生の発案でしょうか。

近藤 これは前任の加藤裕芳先生が理事長だったときに始めた活動です。当初は専門医療機関連携薬局で活躍したい薬局薬剤師向けのガイドラインを作成する予定でしたが、むしろ抗がん薬に関する経験の少ない薬剤師が、がん治療関連の処方箋がきても安心して自分たちで責任を持って調剤ができるように、また患者さんに応対できるようにすることから始めたほうがいいのではないかと議論になり、作成されたものです。1章は調剤

上の留意点を主に解説しています。JASPOでは過去に学術集会で多くの先駆的な事例が発表されており、その中から専門医療機関連携薬局ではない薬局でもできそうな事例をいくつか収集して、それを2章で提示しています。そうごう薬局天神中央店の事例もいくつか取り上げさせていただいています。APACC、BPACCは薬剤師の専門性を高めるための制度ですが、このガイドンスは、がん治療を目指す薬剤師の裾野を広げ、ボトムアップを図るためのものであり、今後も両方の活動が必要だと考えています。また、私が理事長に就任してから、JASPOの学術大会や初任者向けのセミナーについては、学生の参加は無料としました。将来の薬剤師に、がん治療に関する意識を大学生のときから持つておいてほしい。そういったことも心がけています。

下川 ボトムアップは専門医療機関連携薬局の使命でもあると思っています。専門医療機関連携薬局はいま全国で157軒ですが、ゼロの県も多くあります（2023年6月30日現在）。また弊社の実績では、大きな病院の隣の薬局であっても、がん関連の処方箋は40～50%の応需率です。それ以外の処方箋が、がんの経験が少ない薬局に行っているのであれば、その患者さんは、ほんとうに副作用をみていただいているのか、非常に不安です。患者さん向けに「専門医療機関連携薬局を利用しましょう」という啓発に加え、まだ勉強を始めている薬局にも「私たちが支援するので勉強しませんか」という活動も必要だと考えます。

また総合メディカルグループでは、従来実施していたがん治療専門薬剤師育成プログラムを今年度から「薬剤師活躍支援プログラム（がん分野）^{※3}」としてリニューアルし、プログラム参加者は、BPACCの取得を



目指しています。

※2 かかりつけ薬剤師・薬局のがん薬物療法に関する業務ガイドンスは、以下JASPOのHPよりダウンロード可能。
<https://jaspo-oncology.org/publicity/therapyguidance/>
 ※3 薬剤師活躍支援プログラム(がん分野)の詳細は、本冊子13ページをご参照ください。

今後の活動について

下川 今後がん治療に取り組んでいく薬局薬剤師あるいは薬局に対して、学会として、また理事長として期待されていることはどのようなことでしょうか。

近藤 新たに始めていることとして、今後薬局薬剤師との連携を視野に入れている活動の一つはゲノム医療です。国は2017年から、がんゲノム医療コーディネーター研修会等を通して人材育成のための支援を行っていますが、ここ最近では薬剤師の参加者が減少していると聞いています。一方で生命科学の進歩により、ゲノム解析が普及し、遺伝子レベルの情報が急速に臨床の現場に活用されてきており、薬物療法においては個別化医療が進んでいる中、がんゲノム医療に対する薬剤師の育成は必要不可欠と考えています。昨年がんゲノム医療ワーキンググループを学会内に設置しました。現在、薬局薬剤師を対象に、がんゲノム医療に関する教育資料の開発を進めているところです。

もう一つは免疫チェックポイント阻害薬の副作用に関する教育で、これも薬局との連携を意識しています。免疫チェックポイント阻害薬が多く使われるようになり、副作用もかなり多様化しています。これは注射薬ですが、副作用が遅発的に出ることもあるため、薬局でも注意が必要です。そのための教育ツールを製薬会社と連携して作成しています。

下川 先日久留米大学から、分子標的治療薬のレンパチニブの副作用をケアするためにテレフォンフォローアップをすると、4.1か月の治療継続期間が10.4か月に延びたという報告がありました¹⁾。こちらは弊社のそうごう薬局 久留米医大前店もデータを提供していますが、副作用が出そうときに適切な介入をすることによって、副作用がひどくならず半年服薬期間が延長したという報告です。こういった成果を薬剤師の間でも共有し、患者さんにもお知らせすることで、がん治療に関する知識を持った薬剤師に相談するきっかけとなり、薬剤師も勉強の必要性を



再認識するのではないかと考えています。

近藤 私も新医薬品の承認審査を5年間担当していましたが、薬効評価における医療従事者の介入は評価することが難しいです。たとえば吸入薬がいい例で、吸入の仕方を適切に指導することで、有効成分や投与量が同じであっても治療効果が違ってきます。そういった意味では、テレフォンフォローアップで患者さんの副作用が重篤化するのを未然に予防でき、QOLや人生の質が上がるのであれば、薬剤師の適切な介入は、とても大切だと思います。

あと薬局とぜひ一緒にやっていきたいこととしては、がん患者さんとそのご家族のみならず、まだ病気になっていない人に対する啓発活動です。下川さんも2026年のJASPO学術大会では大会長を務めていただき、市民公開講座も開催されると思います。医学系の学会の中では、そういった患者さん向けの講座、セミナーも多いのですが、薬学系ではまだ少ないのが現状です。病院は病気になった人しか来ませんが、薬局には病気ではない人も多く来られ、健康維持や病気の予防に関する取り組みも積極的に行っていますので、ぜひ薬局薬剤師と協力しながら情報を発信していきたいと思っています。

下川 私たちもぜひ、学会にご協力いただきながら、がん治療に関わる薬剤師の育成と、病院、薬局間での連携による患者さんのサポートに取り組んでいきたいと考えています。本日はどうも、ありがとうございました。

近藤 ありがとうございました。

1) Sayo Tsumura et al., J Gastroenterol Hepatol. 2023 Jul;38(7):1140-1147.

(本インタビューは2023年7月に実施されました)

そうごう薬局の取り組み

天神中央店 リニューアル



そうごう薬局 天神中央店では2022年11月から改装を開始し、本年1月にリニューアルいたしました。新しくなった天神中央店の概要や、改装のポイントについて、ご紹介します。

外光をたっぷり取り込んだ、明るく開放感のある店内



そうごう薬局 天神中央店
福岡県福岡市中央区天神1丁目3-38
天神121ビル1階
TEL:092-734-7311 FAX:092-734-7312
(開局日)月~土
(開局時間)月~土 8:30~18:30
祝日 9:30~18:30
※毎月第1土曜日に薬剤師による薬の相談会実施
※毎月第2土曜日にがんカフェを開催



服薬指導・薬剤交付窓口



OTC販売コーナーも充実



個別相談室を2部屋完備



オンライン服薬指導を行うブース

COMMENT

動線の課題を解消し、先服薬指導を実現

現 南関東薬局運営部 運営部長 長澤 陽

天神中央店は開局から20年以上経過して、さまざまな課題がありました。薬局が横長で中央に調剤室があり、両端に待合室が配置されていたため、動線がスムーズではないという点が大きなポイントでした。改装が決定した2021年当時、私は福岡中央ブロック長を務めていましたが、コロナ禍ということもあり、動線を解消するだけでなく、可能な限り患者さんとの接触を少なくするようなオペレーションを導入できないかと考えました。そこでオンライン服薬指導の手法を参考にし、薬局においても先に服薬指導を行う流れとすることで、患者さんの待ち時間対策にもつながりました。2021年6月よりプロジェクトを立ち上げ、さまざまな問題点を解決しながら適切な動線を考慮した設計となりました。改装は昨年11月から始まりましたが、営業を続けながらの対応であり、苦勞もありましたが、現場スタッフ一丸となって取り組んだからこそ完成させることができました。



受付・処方
入力

処方監査

服薬指導

調剤

薬歴作成

調剤監査

薬剤交付

会計・調剤録
作成

Musubi※を使用することで調剤前に画面での服薬指導が可能に。また服薬指導終了時には薬歴が完成。



※Musubi:株式会社カケハシが提供する、次世代型の薬局業務支援サービス



薬剤お渡しカウンター

先服薬指導の オペレーション

処方監査終了後に、服薬指導と並行して調剤を開始。服薬指導終了後に調剤監査を開始。



全自動PTPシート払出装置 ROBO-PICK II (株)湯山製作所



一包化監査支援システム PROOFIT 1D (富士フィルム株式会社)



自動会計システム

COMMENT

今後も患者さんの役に立つ取り組みを続けてまいります

そうごう薬局 天神中央店 薬局長 中村 泰朗

今回、先服薬指導というオペレーションを導入するにあたっては薬剤師の教育やシミュレーションに気を遣いましたが、幸い他の薬局で先服薬指導のオペレーションを経験していたスタッフが在籍しており、その方々の意見も参考にしながら準備を進めました。実際に始めてみると予想通り、患者さんからは服薬指導時と薬剤交付時の2回呼ばれることに戸惑いもあったようですが、希望する方には薬剤を後日郵送するなど、臨機応変に対応するようにしています。私は2011年に天神中央店に赴任しましたが、当薬局はそうごうメディカルグループでの旗艦店として、当時から「患者さんの役に立つ取り組みとは何か」を考えており、かかりつけ薬剤師制度ができる前から、疾患別薬剤師担当者制を導入して、がん患者さんと糖尿病患者さんにそれぞれ専門薬剤師が対応する体制を整えていました。現在、がん治療において当薬局は他薬局の教育も受け持っており、ここががんの専門資格を取得した薬剤師が他の薬局に赴いて、専門医療機関連携薬局の認定取得に尽力しています。糖尿病においては、日常生活習慣が重要になりますが、今後また、薬局内外での健康教室開催や講演などを復活させ、力を入れていきたいと考えています。



塩原店
専門医療機関
連携薬局認定



2023年3月、そうごう薬局 塩原店が総合メディカルグループで3件目となる専門医療機関連携薬局となりました。薬局長である原田剛光さんと、BPACC*を取得した荒井元志さんに今後の抱負などをお聞きしました。
※BPACC：外来がん治療専門薬剤師(日本臨床腫瘍薬学会認定)



そうごう薬局 塩原店
福岡県 福岡市南区塩原3丁目24-26
TEL:092-554-1071 FAX:092-554-1072
(開局日)月～土(祝日を除く)
(開局時間)月～金 9:00～18:00
土 9:00～13:00
※毎月最終土曜日13:00から14:00に薬剤師による薬の相談会実施



店頭に掲示された専門医療機関連携薬局、地域連携薬局の認定証



SOGO SMILE商品の取り扱いも充実

COMMENT

今後は研修先薬局として、教育・サポートを充実させます

そうごう薬局 塩原店 薬局長 原田 剛光

塩原店は九州中央病院からの処方箋が9割以上を占めており、そのうち約2割程度ががん関連の処方箋となっています。そうごう薬局はクリニックからの処方箋を応需している薬局が多く、専門医療機関連携薬局の認定取得できる可能性のある薬局は僅かです。私が勤務している薬局がその可能性があると聞かされて、このチャンスをぜひ活かしたいと思うようになりました。もともと九州中央病院の薬剤部長とは頻りに面談し、顔の見える関係性を築いていましたが、認定取得の取り組みにより、がん専門の薬剤師との繋がりがもできました。また、地域での連携も重視しており、九州中央病院薬剤科と近隣薬局と合同で月1回勉強会を開催するとともに、近隣薬局が専門医療機関連携薬局の認定を申請する際にはアドバイスをするなど、地域薬局のサポートも行っています。今回総合メディカルグループで3件目の専門医療機関連携薬局となったことで当薬局も、次の資格取得を目指す薬剤師を育成する立場となります。配属された薬剤師が、しっかりと目的を果たせるよう、今後も教育・サポート体制を充実させていきます。



全国に専門薬剤師、専門医療機関連携薬局を広げたいと思います

そうごう薬局 塩原店 荒井 元志

私は総合メディカルに就職して、神奈川県の薬局で勤務していましたが、入社3年目のがんの専門資格を取得するプログラムに応募して、福岡県の天神中央店に配属となりました。2022年4月に塩原店(同県)に異動となり、病院研修などをを経て、外来がん治療専門薬剤師(BPACC)の資格を取得したことで、塩原店は専門医療機関連携薬局として認定されました。外来がん治療は薬局薬剤師も患者さんやご家族に直接貢献できるため、やりがいを実感することができるのではないかと、学生のころから興味を持っていました。実際に服薬フォローアップでお話をすると、がん患者さんは副作用などに不安を感じていらっしゃる方も多いため、とても感謝されます。そのような経験を学会などで積極的に発表し、事例を共有するよう努めています。また資格取得にあたっては、介入事例の収集や病院研修などで薬局長、現場の皆さんを始め、学術情報部にも手厚くサポートをしていただきました。次は自分自身がサポート、教育を担当する立場となって、全国に専門薬剤師や専門医療機関連携薬局を広げて参ります。



ドコモショップで健康測定会開催

都城ブロック

健康サポート活動の一環として、宮崎県都城地区の8薬局が合同で、ドコモショップ店内での健康測定会を実施しました。今回初の試みとして、オンライン服薬指導を体験するコーナーを設け、薬局から薬剤師がリモートで行う健康相談などを多くの来場者に体験していただきました。

参加薬局

そうごう薬局 たかお南店、たかお店、上川東店、山田店、広原店、志和池店、都原店、三股仲町店

4月15日(土)
12:00～16:00
ドコモショップ
都城中央店



そうごう薬局
健康測定会@ドコモショップ

2023.04.15(土)
12:00～16:00

ドコモショップ 都城中央店
TEL:0120-696-8300
〒890-0001 宮崎県都城中央1-1-1
営業時間:10:00～19:00
定休日:第2火曜日

■体組成計
体組成率、骨量、基礎代謝量、BMIなどの数値を計測

■ロコモ度チェック
身体状態・生活習慣からロコモリスクになる危険度を計測
*疑わしき方には医師が詳しく説明いたします

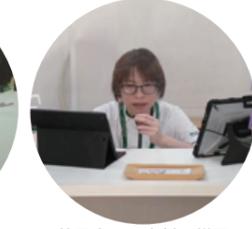
■オンライン服薬指導体験
自宅でいざから薬剤師から服薬の指導を受けたり
再診することなく自宅で服薬を受けられるサービス
【お申し込みから予約まで完全無料です！】

お気軽にご参加ください

4月22日(土)
12:00～16:00
ドコモショップ
鷹尾店



体組成の測定を行うと共に、
薬局にいる薬剤師が、
オンラインで健康相談を行う



薬局内での対応の様子

COMMENT

ドコモショップ様とは2年前に福岡でイベントを開催しており、その時のご担当者が宮崎に異動になったことでまたお声がけをいただき、今回の開催に繋がりました。元々都城ブロックでは店舗外でのイベントを積極的に実施しており、昨年は市・大学共催イベント「地産地消で健康フェア」にも出店しました*1。地域の自治会、民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会などとも顔の見える関係を構築していますが、地域と連携した活動においては、地元採用であるRCS*2の方々の存在が欠かせません。今後もRCSと薬剤師が力を合わせて、魅力的なイベントを数多く開催したいと考えています。

*1 「地産地消で健康フェア」への出店については、APO Letter 83号 11ページをご参照ください
*2 RCS(ラウンドケアスタッフ)：保険請求業務のみならず待合室における患者サービス全般を主として担当するスタッフ

都城ブロック ブロック長 森重 博之

今回のイベントでは、初めての試みとしてオンライン服薬指導体験コーナーを設けました。実際には、薬局にいる薬剤師とオンラインで繋いで健康相談などを体験していただきましたが、10分以上お話をする方もおられ、今後のオンライン服薬指導にも手ごたえを感じることができました。都城は地区内に多くのそうごう薬局が出店しています。今後もこういったイベントを継続して、最終的にはすべての住民の方にそうごう薬局の存在を知っていただき、日常の相談相手として認識していただくことが目標です。

そうごう薬局 上川東店 薬局長 植山 翔太

オンライン服薬指導体験は、薬局側の経験も少ないので、貴重な機会となりました。私は地元出身のRCSで、行政との連携にも力を入れています。3年前から認知症サポーターのキャラバン・メイトとなり*3、市やケアマネージャーの方にも講座開催の案内を行いました。都城で顔の見える関係を継続しながら、薬剤師と力を合わせて、地域のお役に立てるように活動を続けて参ります。

*3 キャラバン・メイト：地域で暮らし認知症の人やその家族を応援する「認知症サポーター」をつくる「認知症サポーター養成講座」の講師を務める。RCSの活動については、APO Letter 82号 7-8ページもご参照ください

そうごう薬局 たかお南店 RCS 下川 香奈

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 JASPO 2023

The Path to the Future

～がん患者に寄り添い支える地域医療連携のミライ～

開催日：2023年3月4日(土)～5日(日)

名古屋国際会議場において日本臨床腫瘍薬学会学術大会が開催され、総合メディカルからも多くの発表が行われました。発表演題の概要をご紹介します。



シンポジウム1 いちからはじめる外来がん治療専門薬剤師への道！

外来がん治療認定薬剤師の申請に必要な症例集積のポイント

薬局事業本部 学術情報部 下川 友香理

発表概要

外来がん治療認定薬剤師(APACC)の認定試験では、がん患者への薬学的介入実績の要約を10症例提出する必要がある。認定試験にて不合格だった症例を分析してみると、介入内容の不備が多く、ついで文の作法・体裁の不備が続く。他の不備事項についても示すため、症例作成時の自己点検の参考にしてほしい。また、認定試験にて合格であった症例を、介入内容について、分析した。本シンポジウムではそれらの一部を紹介するため、今後症例を集積する際の参考にしてほしい。



外来がん治療専門薬剤師への道のり

そうごう薬局 久留米医大前店 牧原 直

発表概要

2022年4月に外来がん治療専門薬剤師(BPACC)に認定された。BPACCは外来がん治療認定薬剤師(APACC)の要件に加えて「薬局が病院と連携するために必要な実地の業務に関する一定水準以上の知識および経験」が求められる。自身のBPACC認定までの道のりを報告することで、認定を目指す薬剤師の後押しとしたい。



シンポジウム12 がん患者に寄り添った、かかりつけ薬剤師・薬局を目指すために ～『かかりつけ薬剤師・薬局のがん薬物療法に関する業務ガイダンス』の活用～

ガイダンスに記載されている有効事例紹介

そうごう薬局 天神中央店 本田 雅志

発表概要

抗悪性腫瘍薬を頻繁に受け付けていない保険薬局の薬剤師が、適切に業務を遂行するための一助として「かかりつけ薬剤師・薬局におけるがん薬物療法に関するガイダンス」が公開された。ガイダンスでは22事例を掲載し、そのどれもが外来がん治療患者への貢献を示す素晴らしい発表ばかりではあるが、限られた時間の関係上、シンポジウムではその中の一部をピックアップしてご紹介する。



一般演題
(口演) 17

外来がん薬物治療患者に対して適切な支持療法の提案を行うことで処方カスケードを回避した1例

そうごう薬局 天神中央店 足立 昇平

発表概要

がん薬物療法において、副作用に対する支持療法は患者のQOL向上に大きく貢献するものの、支持療法薬の副作用によって新たな処方カスケードを生じることもある。

今回、糖尿病治療中の肺がん患者の化学療法に対し、薬局薬剤師が制吐剤としてのステロイドのスペアリングを提案し、血糖変動を改善させることで処方カスケードを回避した症例を報告する。



ポスター発表

専門医療機関連携薬局と連携した薬局薬剤師がS-1による流涙の可能性に気づき適切な対処を行った一症例

そうごう薬局 今福つるみ店 師橋 一徳

発表概要

2021年8月より、がん等の専門的な薬学管理に関係機関と連携して対応できる薬局を「専門医療機関連携薬局」と認定する制度が始まった。地域のどの保険薬局においても適切な対処ができるよう、連携薬局は他の薬局へ必要な情報を提供し、地域医療に貢献することが期待されている。当薬局においても、自社の連携薬局から情報提供を受けられる体制を昨年より構築している。今回、その情報提供によりS-1による流涙に気付くことができた症例を報告する。



第16回日本緩和医療薬学会年会

持続可能な発展に向けた緩和医療薬学の未来予想図を描く

開催日：2023年5月26日(金)～28日(日)

神戸国際会議場で開催された第16回日本緩和医療薬学会年会におけるポスター発表をご紹介します。

ポスター発表

在宅訪問薬剤師が多職種と連携し末期癌患者の疼痛管理を中心とした支援を行った1事例

みよの台薬局株式会社
そうごう薬局 在宅調剤センター青砥店 桐山 祐紀江

発表概要

自宅で最期を迎えたいと希望する患者が増加している一方で、在宅療養中の疼痛コントロールが十分にできないために、自身が希望する生活を送れない患者も少なくない。今回、自分らしく生きることを強く希望する患者に対して、在宅訪問薬剤師が多職種と連携して疼痛コントロールを行った事例について報告する。



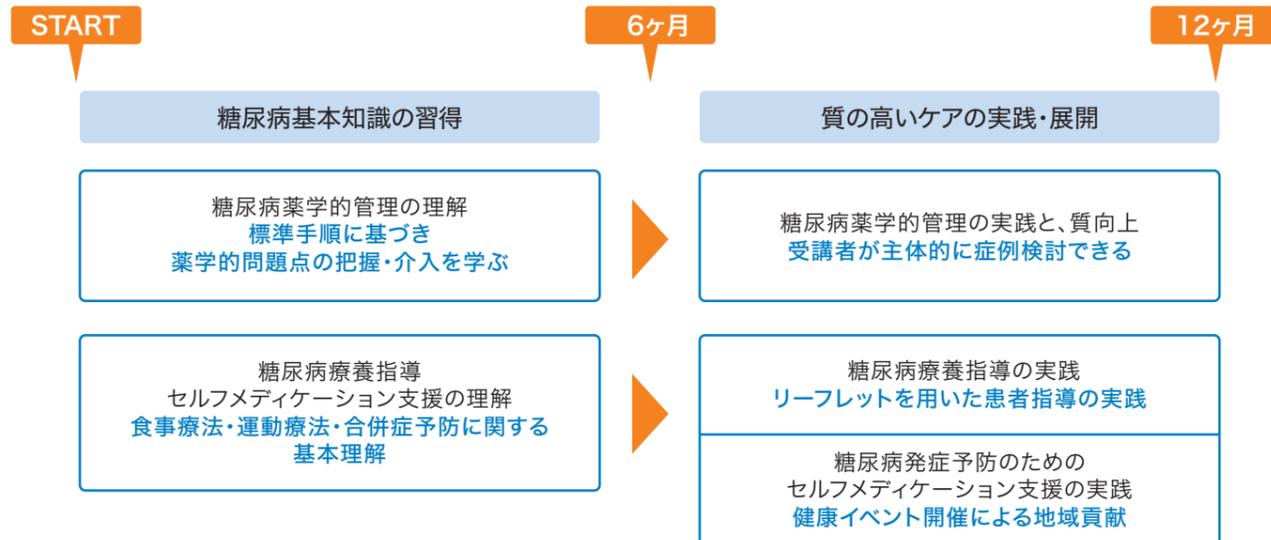
そうごう薬局の薬剤師の専門性を向上し、地域での活躍を支援するためのプログラムを開講しました。専門性による患者貢献や、地域包括ケアへの関わりを高めると共に、専門資格の取得や学術活動を支援していきます。今回は、糖尿病分野とがん分野の薬剤師活躍支援プログラムを紹介します。

薬剤師活躍支援プログラム(糖尿病分野)

総合メディカルグループの薬局において、質の高い糖尿病薬物療法・糖尿病療養指導に対応できる薬剤師の育成と活躍のため、薬剤師活躍支援プログラムを実施しています。国内の糖尿病患者・予備軍の方は約2,000万人と言われています。地域の健康サポート薬局として、糖尿病発症予防のために正しい情報を提供し、また糖尿病患者の治療を生涯にわたって支援し、合併症発症予防に貢献するために、正しい知識・考え方に基づく薬学的管理・療養指導を身に付ける必要があります。本プログラムではオンライン研修により、症例検討、薬局での薬物治療や療養指導の実践課題を通じて、即戦力となる人材の育成を目指しています。

プログラムの育成目標と概要

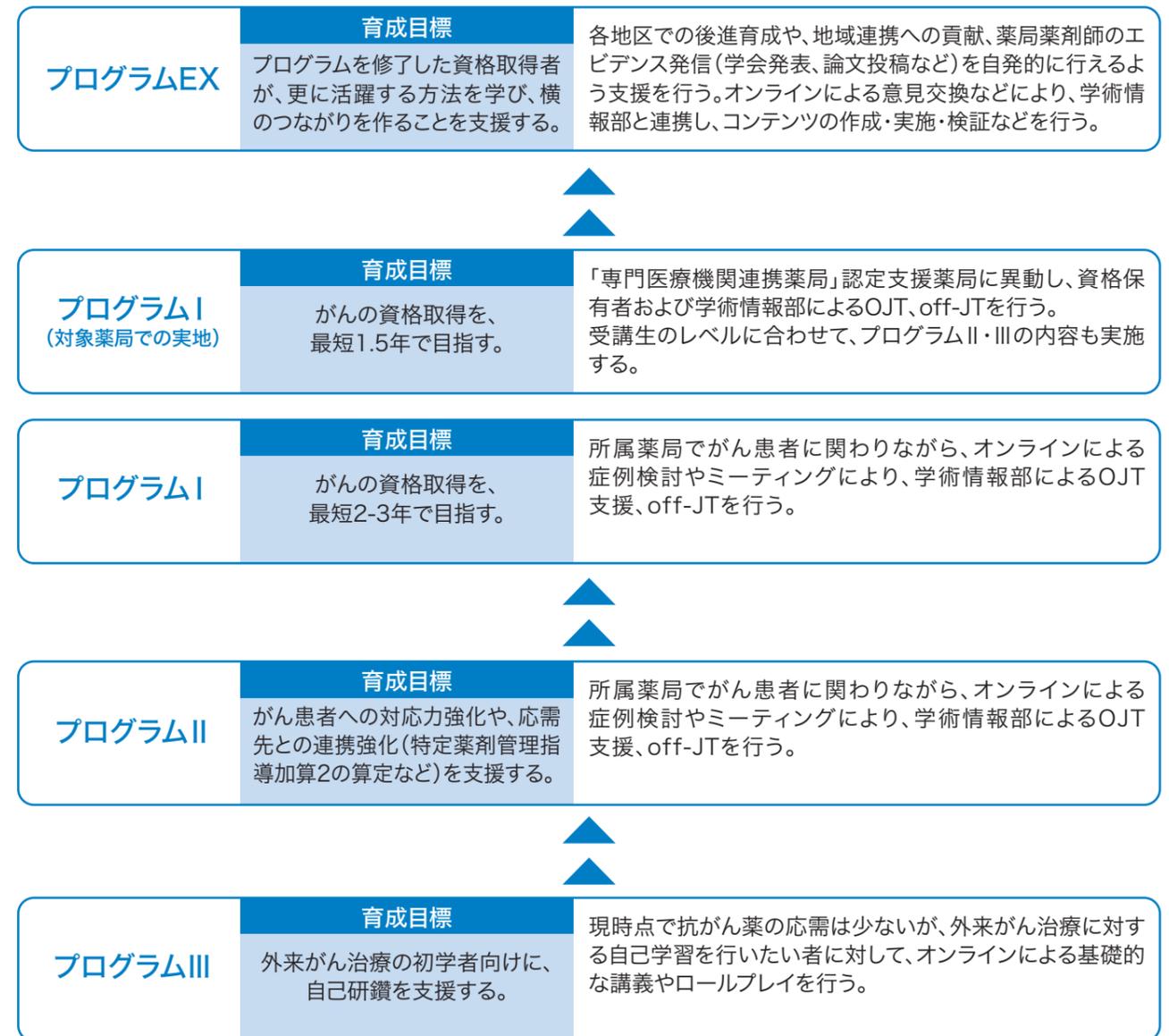
	育成目標	研修内容
1	糖尿病薬学的管理の質向上	・糖尿病薬物療法に関する講義と実践 ・症例検討
2	標準手順に基づいた患者対応の習得	・標準手順のOJT、事例報告
3	糖尿病療養指導の習得 セルフメディケーション支援の習得	・リーフレットを用いた療養指導の実践 ・健康イベント開催による発症予防指導の実践



薬剤師活躍支援プログラム(がん分野)

2021年から始まった認定薬局制度における「専門医療機関連携薬局」では、がんの専門性を有する薬剤師が認定要件となりました。本プログラムでは「専門資格の取得」の支援に加えて、「外来がん治療の初学者の学習支援」「外来がん治療を行う医療機関との連携支援」を行っています。また2023年からは「すでに資格を取得した薬剤師向け」に、さらなる活躍を支援するプログラムを用意しました。プログラムを修了した資格取得者の横のつながりにより、患者貢献の取り組みを社内共有したり、社外への発信を支援していきます。

プログラムの育成目標と概要



vol.85

2023年9月発行 発行／総合メディカル株式会社
〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名 2-9-23
薬局事業本部 TEL：092-713-7061

